

心を育てるISO活動 みんなで守ろう みんなのふるさと できることからはじめよう

はじめに

【日奈久小ってどんなところ?】

八代市の南西部に位置し、600年以上の歴史を持つ温泉の町、日奈久。東は山、西には海、学校の周りには水田が広がる自然豊かなところ。小学校には、男女仲良く元気な子どもたちが116名通っている。隣接した日奈久中学校とは運動場を共有。平成23・24年度八代市隣接型小中一貫・連携教育のモデル校で小中の交流も多い。



【取組のポイント】

日奈久小では、学校版環境ISO活動は環境教育の実践としてだけではなく、活動を通してボランティア精神や道徳的な心の芽を育てる取組となるよう目指している。

児童の実態

【日奈久小の子どもたち】

- ・電気の消し忘れ、水の使いすぎの時もある。
- ・委員会の児童は、よく活動する。
- ・環境学習会や体験学習などを通して環境を守ることの大切さについて知識として分かっている。
- ・学校での学びや体験が家庭や地域で十分実践化されていない。



学ぶ・知る

【環境学習会「エコタイム」】

全校一斉の環境学習会は年に一度。自分たちの手で環境を守ろうということ再認識する大事な機会である。市の環境課と廃棄物対策課から来ていただき、高学年では地球温暖化について低・中学年では資源物の種分けについて教えて頂いた。



【5年 日奈久クリーン作戦】

日奈久の堤防沿いの水門近くに出かけ、ゴミを拾う活動を行う。わずか一時間で450ゴミ袋2袋分になった。身近なところから環境を考えるきっかけになる。



【地域の資源回収へ参加】

環境委員は月2回の地域の資源回収にも参加。学校で分別した資源物を回収場所まで運ぶ。地域でお世話をされている方とも挨拶を交わす。協力して取り組まれている姿に感じ、学ぶ。



宣言

日奈久小学校版環境ISO宣言

目標 電気・水・ごみ袋使用量5%削減!

- 【節電】 ○電気はこまめに消そう。
- 【節水】 ○そうじのときはバケツ半分の水を使おう。
○歯みがきのときはコップの水を使おう。
- 【ゴミ減量】 ○鉛筆や消しゴムは大切に
使おう。
○残った紙はリサイクル
ボックスに入れよう。
○ティッシュの袋などは
プラ資源入れに入れよう。



全校集会で宣言

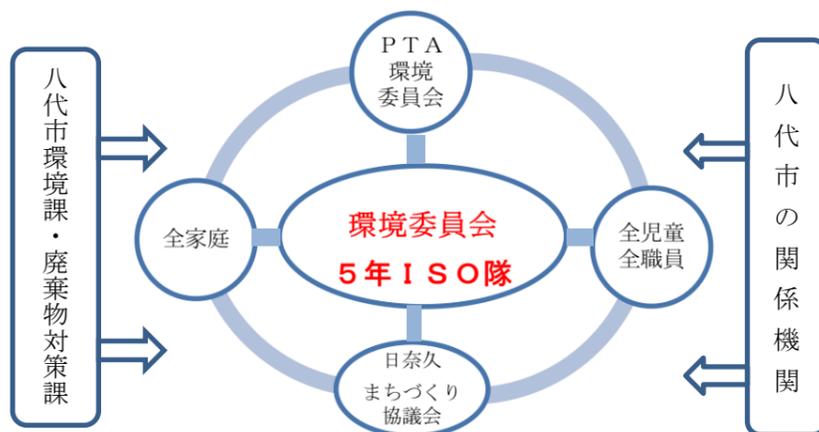


宣言項目を環境コーナーに掲示

行動 1

(1)組織づくり

みんなで取り組む学校版環境ISO活動は環境委員会と5年生ISO隊が中心となって活動している。日奈久まちづくり協議会を位置づけ、八代市役所や関係団体とも連携を深め、地域とのつながりもできている。



(2)具体的な取組

【節電の取組】

各学級では電気係などを作り、声を掛け合うようにしている。また、できるだけコンセントを抜き待機電力カットにも努め、スイッチ近くにはエコ標語を掲示し節電を呼び掛けている。窓の開閉や衣服の着脱で調整をして、エアコンを使用するときには、設定温度も夏は28℃、冬は18℃を目指している。



【節水の取組】

歯磨きはコップに水を汲んで行うようにしている。バケツにはテープを貼り、水の量も半分以下にして掃除の時の水のムダ遣いを防ぐようにしている。



【リサイクルの取組】

紙類

各教室に紙類リサイクルボックスを置き、紙や段ボールのリサイクルを進めている。印刷室には、サイズごと裏紙入れを用意し、裏紙印刷を進めている。年度初めには、資源物の種分けの仕方のプリントを作成し、全職員共通理解を図り、職員室の目に付く場所に掲示。裏紙もコピーに再利用し、リサイクルコーナーの配置を使いやすくするなど職員も考えを出し合いながら一緒に活動している。



プラ資源

昨年から全学級に設置しているプラ資源入れ「まだまだツカエル君」をゴミ集約のときに一緒に持って来てもらい、環境委員会で回収を行っている。



その他の資源物

職員室の一角に分別コーナーを設けている。また、エコステーションには分別した資源物だけでなく、掃除道具など各教室で不要になったものでまだ使えるものを集め、リユースしている。



【ゴミ計量の取組】

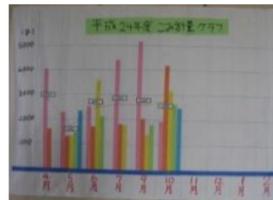
今年度はゴミの計量に取り組んだ。毎週水曜日にゴミを一カ所学級別に量り、重さを記録した。また、ゴミが多いときは、その内訳を観察し、減量の方法を考えるようにした。



点検・記録

【ゴミの計量・グラフ化】

毎週計量したゴミの量を表に記録し、それをもとに環境委員会でグラフを作り校内に掲示した。毎回の結果を棒グラフ、月の平均を折れ線グラフで表し、変化が分かりやすくなった。



【ISO 調べ】

宣言項目は学期に一度、環境委員が中心になり、学校版環境 ISO 宣言の項目をチェックしている。各学年環境委員が回り、宣言項目について行動できたかどうかを尋ねて記録する。集計した結果は、低学年でも分かるように 10 人を一枚のイラストに置き換え、棒グラフにしている。グラフは各学期の結果を項目ごとに比較できるようにしている。この表は、学校版環境 ISO 宣言と一緒に環境コーナーに掲示し集会で結果を知らせ、意識が高まるようにしている。



【過去 3 年間との比較】

宣言項目のうち 5 項目は、過去 3 年間と同じである。そこで、今年度一学期と比較して表にした。

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度 1 学期
節電	47%	60%	57%	82%
節水(歯みがき)	74%	75%	82%	87%
節水(バケツ)	71%	81%	95%	91%
紙(リサイクル)	33%	56%	47%	66%
鉛筆・消しゴム	65%	84%	86%	85%

見直し(成果と課題)

- ゴミ計量の結果、5 月は減ったものの、それ以降はまた増加したままあまり減らなくなった。グラフにするだけでなく、児童や職員、家庭へ現状を知らせ、呼びかけを続けて行くことが必要。
- 平成 21 年度から 4 年間の ISO 宣言 5 項目の割合を表にしてみると、年々意識が高まってきているのが分かる。継続して取り組むことの重要性が分かった。しかし、その中でも「紙のリサイクル」を心がけている児童は 6 割に留まっており、今後も継続し、更に工夫した取組が必要である。
- 「これはプラ資源ですか?」と自分から聞きに来る児童がいた。進んで分別しようという気持ちが育ってきている。

行動 2

【全校集会での呼びかけ】

一学期の ISO 調べの結果を全校集会で発表。ごみ集約のときの気づきから ISO 宣言項目の確認と紙の分別の協力を呼びかけた。



【紙のリサイクル】

各学級リサイクルボックスの設置を確認。また、職員室でも改めて裏紙を利用することを進める。更に、手のひらより小さい紙は資源に出せるように、大きめの古封筒などにまとめ括ることを考えた。今後、このような出し方を提案する準備を進めている。



心を育てる活動

【グリーンタイム(栽培活動)】

「みんなで力を合わせて花いっぱいの日奈久小に」を目標に全校児童で学級園の花植えを行っている。学校職員が種から育てた花の苗を大事に育てている。地域学校応援団の協力もある。秋の植え替えでは一人一鉢の花も大事に育て始めた。



【エコ・ボランティア】

ペットボトルキャップの回収活動に参加している。一昨年・昨年の両年とも年間 24 kg、合わせておよそ 19200 個のキャップが集まった。コツコツ地道な取組は 12 人分のワクチンになった。もっと集まるように、集会でも呼びかけた。今年度は既に 20 kg 以上集まり、昨年以上の回収。ゴミも減り、人の役に立つ活動で心もあたたかくなる。



【壁新聞づくり】

今年度の環境委員会の壁新聞のテーマは「ゴミ減量について」。なかなか減らないゴミを減らすために大事なことを考えまとめた。エコ新聞を作りながら、環境委員も環境についての学び直しができた。今後の活動に、さらには来年の活動へもつなげたい。



【家庭や地域への発信】(学習成果発表会の呼びかけ)

5 年生は「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で県環境センターや水俣病資料館等を訪れた。水俣病や環境について学んだことを言葉や歌や創作ダンスでまとめ、「たけのご発表会」で地域・保護者に向けて発表した。水俣病について正しく理解し、自分たちの手で環境を守る大切さについて啓発を行った。



【地域との連携】

心を育てる上で地域との連携はとても大切なことである。幸いなことに中学校や婦人会との連携を図り、「みんなで守ろうみんなのふるさと」を合い言葉に活動している。年に 2 回、隣接する日奈久中学校や日奈久婦人会と連携・協力して、クリーン作戦(校区の清掃)を行う。ゴミの中には空き缶やペットボトルなどリサイクルできる資源も多く、きちんと分別することやゴミを捨てないことの大切さを知る。



【他の委員会と協力】

本のポップづくり 図書委員会
環境委員が環境に関する本を選び、新しく学校で購入してもらった。その本を全校で紹介するにあたり、図書委員に協力してもらい、一緒にポップづくりを行った。

完食チャレンジ 給食委員会

今日は残さず食べる
ことができたよ



たくさんの友だちが
読んでくれるといいな



「給食の残渣は、ごみになってしまふ。無駄を減らしたい。」そんな児童の思いから、給食委員と協力して給食完食チャレンジの取組を行った。定期的に取り組んで残さず食べるという気持ちを育てることにつなげたい。

今後の取組 (指針・方策)

今年度は、ゴミの計量に力を入れて取り組んできた。自分たちで調べグラフにしたり新聞を書いたりする中で、子どもたちは多くのことを学んだようだ。自分たちの手で環境を守ろうとする気持ちを育てるためにも、環境問題を身近に感じられる活動を取り入れていかなければと思う。また、家庭や地域の理解と協力も得ることができるよう啓発にも努めたい。